聖金曜日　主の受難

第一朗読　イザヤ 52・13～53・12
第二朗読　ヘブライ 4・14-16、5・7-9
福音朗読　ヨハネ 18・1～19・42

2025.4.18　19：30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　高木健次神父

わたしたちは――キリスト教ですから――いつもイエス様の十字架を仰ぎ見て、その意味を考えます。そして特に今日、聖金曜日には、そのことにもう一度集中して、イエス様の十字架の意味を思い起こし、そして十字架の前に立つ、そういう日です。

イエス様は、第一朗読にもあるように、十字架のイエス様の苦しみというのは、ご自分の苦しみではなくて、神様から離れているわたしたちの苦しみをご自分のものとして引き受けてくださった、そういう苦しみだし、十字架の苦しんでいるイエス様のご像、その姿は、それをわたしたちに思い起こさせてくれます。そういう意味では、その十字架を見て、一人ひとりが「ああ、この方だったらわたしのこの苦しみを分かってくださる」っていうその思いで十字架の前に自分の苦しみを語る、打ち明けるということは意味があることであると言うことができます。

しかし、どんなことにも誘惑の入り口があります。十字架のもとにも誘惑への誘(いざな)いの蛇がいるわけです。どんなことの中にも、この地上においては、入ってくるわけです。そしてその誘惑をする蛇は、「いや、イエス様に自分の苦しみを語っても仕方がない」とはわたしたちに語りかけてはこないんだろうと思います。そういう誘惑はもう非常に初級者コースというか。むしろ、十字架のもとに蛇がいて、一人ひとりが「自分の苦しみをこの人だったら分かってくださる」っていう思いで十字架の前に立つ、そのわたしたちに向かって「さあ、あなたの苦しみをイエス様に話すんです。あなたの苦しみをイエス様に語るんです」ってずっと誘ってくるのが誘惑の蛇なんじゃないかなと思います。

そしてその言葉に従って自分の苦しみをイエス様に語り続ける。どうなるか。一つは、Ａコースは、何も起こらないから、結局自分の苦しみのこの思いは届いていないんだというふうになって、まさにその「この方だったら分かってくれると思ったけど、分かってくださらないんだ」っていうふうにして、イエス様のもとから去る。これが作戦Ａね。

Ｂコースは、苦しみをイエス様のもとに語り続けるっていうことが気持ちよくなってきて、苦しいんだけどもそれが依存的なことになります。そして「イエス様は分かってくださる、わたしの苦しみを」。そして、その中だけに留まるっていうことですね。そこから先には行かない。十字架の前でイエス様に自分の苦しみを語り続けるということ。そうすると、他の人とのつながりが切れる。そしてイエス様と語っているつもりで、自分は実は自分の中に閉じこもるっていう。

つまり、イエス様は十字架の上でわたしたちの苦しみを担い、神とそして人とつなげてくださるためにその苦しみの姿をわたしたちの前に示してくださっているのに、Ａコースはそのことに信じられなくなって神とのつながりが切れる。Ｂコースはそのこと――自分の苦しみを語るっていうこと――だけに依存的になって閉じこもって、他の人とのつながりが切れるっていうことです。これは十字架を信頼していながら、キリスト教ではないと言わなければなりません。わたしたちの歩みは、「イエス様はわたしの苦しみを分かってくださる。だから自分の苦しみはイエス様に任せて、そしてわたしはマリア様のように他(た)の人の苦しみのもとに立つのだ」、この思いを持つ。これが十字架の神秘であると言わなければならないんです。

十字架のもとに立つマリア様の苦しみは、イエス様に向けられたものだし、十字架上のイエス様の苦しみは、十字架につけられている自分の肉体的な苦しみではなくて、神と離れている全ての人の苦しみを担っている。そういう意味では、自分への関心からは離れているわけです。

だからわたしたちも、自分の苦しみをイエス様が、この人だったら分かってくださる、その思いは正しい。そしてイエス様の前に自分の苦しみを委ねて、そして、わたしは他の人の苦しみとともに、理解するように、そのもとに立つのだ、

マリア様とともに、イエスの愛するもう一人の弟子となって。これがキリスト教であるということなんではないかと思います。

どんなことの中にも誘惑がある。だからわたしたちは十字架の前に立つときに、その誘惑――自分の中に閉じこもるようにっていうその誘惑から守られて、イエス様とつながり、そしてマリア様とつがる。イエス様につながり、そしてマリア様につがって、わたしたちが本当にその十字架の神秘の中で誠にその自分の苦しみからイエス様によって解放されて互いに愛し合う。それは最初には身近な人の苦しみ、そして出会ったことがないけど他の人の、そして最終的には敵対している者の苦しみにさえ、そのもとに立つ。それは違う言い方で言えば、愛するということですね。そこへ導くためにイエス様は十字架の上からわたしたちを招き寄せてくださるのだということを思い起こしたいと思います。

今日、特に、この主の受難の神秘を祝いお祝いする金曜日にあたり、わたしたちがその十字架によって本当の意味での解放、自分へのこだわりから解放されて、そして互いにつがる、神様とそして人間同士がつながることができるその恵みに信頼して、信仰の歩みを新たにしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。
PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi
携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/